

事例1 概略 思いをもって歌唱表現を工夫する児童の育成の事例

第2学年 A表現(1)歌唱ア、イ、ウ(イ)、(2)器楽ア、イ(イ)、ウ(イ)、B鑑賞ア、イ
 児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素【音色、速度、旋律、強弱】

1 題材名 ようすをおもいうかべよう（7時間扱い）

2 題材の目標

- (1) 音色、旋律、強弱などと曲想との関わりに気付き、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能や、音色に気を付けて、旋律楽器を演奏する技能を身に付ける。〈知識及び技能〉
- (2) 音色、速度、旋律、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、様子を表す音楽の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いをもったりする。
 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 曲の雰囲気合った表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組み、様子を表す音色や速度、旋律、強弱に親しむ。
 〈学びに向かう力、人間性等〉


3 教材について

- (1)「卵の殻を付けた雛鳥のバレエ」 ムソルグスキー 作曲
- (2)「あのね、のねずみは」 春畑セロリ 作詞作曲
- (3)「夕焼け小焼け」 中村雨紅 作詞／草川 信 作曲
- (4)「小ぎつね」 ドイツ民謡（勝 承夫 日本語詞）

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。(歌唱、鑑賞) ②技思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けている。(歌唱) ③知技鍵盤ハーモニカの音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカを演奏する技能を身に付けている。(器楽)	思①音色、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞) 思②音色、速度、旋律、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いをもっている。(歌唱、器楽)	態①音や音楽から想起する様子に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱、器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱、器楽、鑑賞)

5 指導と評価の計画（全7時間のうち、歌唱として取り扱うのは3～5時）

時	◆ねらい ○学習内容・学習活動 ◎指導上の留意点	知技	思	態
1	1次◆音や音楽から曲が表す様子を思い浮かべる。〈鑑賞〉 ○音色、速度を聴き取り、曲の楽しさについて考える。	↓	①観察・記述	↓
2				
3	2次◆曲が表す様子を生かして、歌ったり演奏したりする。〈歌唱〉 ○曲想に合った歌い方を考える。 ・「あのね、のねずみは」の範唱を聴き、曲想を感じ取る。 ・付点のリズムを感じながら歌唱する。 ・歌詞の表す情景や気持ちを想像し、曲想に合った歌い方を考える。 ◎歌詞の内容から動物の様子を捉え、具体的な姿を想像することで、どのように歌いたいか思いをもつことができるようにする。 ◎教師が様々な歌声で範唱を提示し、歌唱表現における児童の思考判断の選択肢を広げることができるようにする。 ◎様々な人物（動物）をイメージしながら色々な歌声の音色を試すことで、次時の学習に生かすことができるようにする。	①知 観 察 ・ 記 述	↓	↓
				
4	○歌詞の様子を思い浮かべながら歌唱する。 ・「夕やけこやけ」の範唱を聴き、曲の感じをつかむ。 ◎前時の学習を振り返り、様々な人物をイメージしながら高さや響きなどの異なる色々な音色で既習曲を歌うことで、歌声の幅を広げるようにする。 ◎範唱に合わせて体を動かすことで、ゆったりとした旋律の特徴をつかむようにする。 ◎「あのね、のねずみは」の曲想と比較して、範唱を聴いたり歌ったりすることで、曲想が違っていると、相応しい歌声も異なってくることに気付くようにする。	↓	↓	↓
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・1番と2番の歌詞の表す情景を比較し、歌声の音色や速度を工夫する。 ・旋律の上がり下がりや歌詞の表す情景の関連を視点に曲の山（第2～3節）の強弱表現をグループで工夫する。 ・第4節の終わり方を考え、曲全体を通して歌う。  ◎1番と2番の歌詞の表す情景を比較し、時間の経過に気付くようにすることで、歌唱表現を工夫する手掛かりにできるようにする。 ◎グループや個人の歌声を学習者用PCに録音して聴き返すことで、思いにあった表現ができているか振り返ることができるようにする。 			
6	○様子を思い浮かべながら、鍵盤ハーモニカの演奏を工夫する。 ○階名唱が慣れてきたら、鍵盤の運指を同時に行いながら階名唱することで、なめらかに鍵盤ハーモニカで演奏できるようにする。	③知 技 観 察 ・ 聴 取	②観 察 ・ 聴 取 ・ 記 述	①観 察 ・ 聴 取 ・ 記 述
7				